

※学部・研究科ごとに作成してください。

基準1 理念・目的 点検・評価項目①

大学の理念・目的を適切に踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の設定とその内容
- 大学の理念・目的と学部・研究科の目的の連関性

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	<p>【自己評価の理由】 経営管理研究科では、本学の理念を踏まえ、研究科の理念および目的、学位ごとの学修成果を設定している（資料 1-①-1、1-①-2）。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし。</p> <p>【課題】 特になし。</p>	<p>1-①-1 理念・沿革 リンク先「学位プログラムの学修成果」</p> <p>1-①-2 ミッション</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
人材育成その他の教育研究上の目的（以下、「目的」）を設定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準1を満たしている。 ・目的を学則別表に記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準2を満たしている。 ・目的を学部・研究科単位で設定している。 ・目的は高等教育機関としてふさわしく、学部・研究科の個性や特徴を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準3を満たしている。 ・目的と大学の理念との関連性を考慮し、文中に明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準4を満たしている。 ・目的を課程ごと、学位ごとに定めている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
4	本学学位規則第2条第6項では、経営管理研究科で授与している学位は、経営管理修士（専門職）、ファイナンス修士（専門職）の2つである。学位ごとに教育・研究上の目的を定めていることが確認できないため、4と判断した。

学部・研究科の目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

- 学部においては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的の適切な明示
- 教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等による大学の理念・目的、学部・研究科の目的等の周知及び公表

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	<p>【自己評価の理由】 経営管理研究科の目的については、当研究科ウェブサイト、入学案内等で周知を行っており、複数の方法で広く社会に公表している（資料 1-②-1、1-②-2）。また、研究科運営委員会の会議資料（資料 1-②-3）にも掲載しており、箇所内の教職員が定期的に確認する機会を設定している。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし。</p> <p>【課題】 特になし。</p>	1-②-1 ミッション 1-②-2 パンフレット 1-②-3 運営委員会資料 リンク先 2 ページ目 「Mission Statement」 「Vision and Values」 「Strategic Goals」

【評価基準】

1	2	3	4	5
目的を刊行物やウェブサイトなどいずれかの方法で公表している。	目的を刊行物、ウェブサイトを含めた複数の方法で公表している。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・目的の公表にあたっては、学部、学科又は課程ごとに、研究科においては、研究科又は専攻ごとに明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・目的を箇所内の教職員が定期的に確認する機会を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・目的を箇条書きにする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
5	

内部質保証のための方針及び手続を定めているか。

- 下記の要件を備えた内部質保証のための方針及び手続の設定
 - ・内部質保証に関する基本的な考え方
 - ・内部質保証の推進に責任を負う組織の権限と役割
 - ・教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針（PDCAサイクルの運用プロセスなど）

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
4	<p>【自己評価の理由】 ビジネススクール国際認証(EQUIS, AACSB)への対応過程で中期計画を策定している, そこの経営管理研究科の Mission, Vision に対応して, ルーブリックスを策定し, 組織としては AoL(Assurance of Learning)委員会(資料 2-①-1)が, 継続的に教育の質の継続的改善をモニターしている。</p> <p>【グッドプラクティス】 経営管理研究科が独自に開発した Assurance of Learning (AoL) System (資料 2-①-2、2-①-3、2-①-4) を用いて 2016~2022 年度について結果をデータベース化し, 測定から改善までの”Closing the Loop”のフレームワークを確立した。</p> <p>【課題】 SDGs, DX など今後の重点領域への対応についての, より深い議論が必要。</p>	2-①-1 各種委員会一覧 2-①-2 AoL ハンドブック 2-①-3 カリキュラムマップ 2-①-4 ルーブリック

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証のための方針および手続を設定している。 ・内部質保証推進組織をはじめとする内部質保証に関する体制が整備され、各組織の権限・役割が内規等で定められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・内部質保証体制の各組織が十分に機能するよう、それぞれの役割が定義されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・内部質保証体制の各組織が十分な連携が図れるよう、それぞれの役割が定義されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・内部質保証体制を図示化するなど、PDCA の一連のサイクルが明確にされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・内部質保証のための方針や手続きについて、所属の教職員に定期的に共有する機会を設けている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況 (2023 年提出分は記載不要)

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
1	根拠資料において、役割が明確に読み取れないため、1 と判断した。

基準 2 内部質保証 点検・評価項目③

方針及び手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。

- 方針及び手続きに従った内部質保証活動の実施
- 学部・研究科における点検・評価の定期的な実施
- 学部・研究科における点検・評価結果に基づく改善・向上の計画的な実施
- 行政機関、認証評価機関等からの指摘事項（設置 計画履行状況等調査等）に対する適切な対応
- 点検・評価における客観性、妥当性の確保

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 カリキュラム・FD 委員会（資料 2-②-1）を中心としてシラバスの内容確認、コンテンツの検討を実施している。また大総研が実施する「学生授業アンケート」の全科目に関する結果を研究科運営委員会において公開し、一定基準に満たない科目については「授業改善案」の提出を義務化している（資料 2-③-1）。</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】 授業改善案の提出を求める基準をより厳しくするなど、継続的な改善に向けた施策が求められる。</p>	<p>2-①-1 各種委員会一覧</p> <p>2-③-1 運営委員会資料</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証の取組が方針と手続きに従って行われている。 ・点検・評価結果に基づいて、内部質保証推進組織による改善のための検討が行われている。 ・文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・点検・評価および点検・評価の結果に基づく改善を定期的に行う仕組みを構築している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・内部質保証推進組織による改善のための検討が行われ、その結果が箇所内に共有されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・点検・評価結果に基づく改善を行っている。 ・内部質保証のプロセスの客観性・妥当性を確保するための取組を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・内部質保証システムに関する自己点検・評価の結果に基づいた取り組みの結果、改善が見られる。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目①

授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

○課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針の適切な設定（授与する学位ごと）及び公表

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 経営管理研究科では知識、技能、態度などの要素を含んだ学位授与方針を定め、ウェブサイトで公表しており、その内容は全学の学位授与方針とも関連している（資料 4-①-1）。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし。</p> <p>【課題】 2023 年度に研究科内に「将来構想委員会」を設置し、現在、MBA ホルダーに求められる能力、修了条件について検討中。</p>	4-①-1 理念・沿革 リンク先「ディプロマ・ポリシー」

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> 学位授与方針を課程ごとと学位ごとに設定している。 学位授与方針をウェブサイトや要項等で公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 1 を満たしている。 学位授与方針は、知識、技能、態度などの要素を含んだものとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 2 を満たしている。 学位授与方針は全学の学位授与方針と連関性を有している。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 3 を満たしている。 学位授与方針に卒業要件、修了要件が明示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 4 を満たしている。 箇条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目②

授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

- 下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定（授与する学位ごと）及び公表
 - 教育課程の体系、教育内容
 - 教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等
- 教育課程の編成・実施方針と学位授与方針との適切な連関性

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 経営管理研究科では学位授与方針を踏まえた、教育課程の編成・実施方針を定めてウェブサイトで公表しており、同方針に関する考え方や、授業科目区分に関する記載等も含まれている（資料 4-②-1）。</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし。</p> <p>【課題】 特になし。</p>	4-②-1 理念・沿革 リンク先「カリキュラム・ポリシー」

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施方針を課程ごと、学位ごとに設定している。 ・教育課程の編成・実施方針をウェブサイトや要項等で公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・教育課程の編成・実施方針は、編成に関する考え方、実施に関する基本的な考え方を含んでいる。 ・学位授与方針との連関性を確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・教育課程の編成・実施方針に教育課程の体系、教育内容、構成する授業科目区分、授業形態等を記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・箇条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。 	/

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目③

教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

- 各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置
 - ・教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性
 - ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮
 - ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定
 - ・個々の授業科目の内容及び方法
 - ・授業科目の位置づけ（必修、選択等）
 - ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定
 - ・初年次教育、高大接続への配慮（【学士】）
 - ・教養教育と専門教育の適切な配置（【学士】）
 - ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等（【修士】【博士】）
 - ・理論教育と実務教育の適切な配置等（【院専】）
 - ・教育課程の編成における全学内部質保証推進組織 等の関わり
- 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	<p>【自己評価の理由】 経営管理研究科の Mission である "To create actionable management knowledge and to develop insightful and responsible leaders with global perspectives. Here, we foster a dynamic learning community of faculty and students." を達成するために、必修科目、選択科目と演習科目、研究指導を効果的に組み合わせたカリキュラム・ポートフォリオを維持している。特に学生の多くが社会人であることから、単なる知識の伝達ではなく、適用条件・成功条件を考慮した実践的な知として定義される "actionable management knowledge" を獲得することを目的として、より経営学の実践に重きを置いているほか、演習科目(いわゆるゼミ)での少人数教育によりリーダーシップを涵養し、学生、教員、さらには修了生を含めた "learning community" の形成を目指している。(資料 4-③-1、4-③-2)</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】 特に無し。</p>	<p>4-③-1 履修ガイダンス資料</p> <p>4-③-2 基本要領 リンク先 P.2～P.13</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
教育課程の編成・実施方針と授業科目・教育課程の連関性を確認できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・教育課程の編成・実施方針に記載されている内容の科目が設置されている。 ・科目区分と設定されている授業時間数、単位数が適切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・学修成果の獲得という観点から必修科目や専門科目が適切に設置されている。 【学部】 ・初年次教育に配慮した科目や教養科目、共通科目等が適切に配置されている。 【研究科】 ・リサーチワークとコースワークが適切に組み合わされている ・1 年次に研究倫理教育を受講することを要項等に記載している。 【専門職】 ・理論教育と実務教育のバランスに配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・学修成果の獲得という観点を踏まえて順次性や体系性に配慮した教育課程が編成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・社会的および職業的自立を図るための教育を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況 (2023年提出分は記載不要)

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
5	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目④

学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

- 各学部・研究科において授業内外の学生の学習を活性化し効果的に教育を行うための措置
- ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置（1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等）
- ・シラバスの内容（授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、事前事後の学修の指示、成績評価方法及び基準等の明示）及び実施（授業内容とシラバスとの整合性の確保等）
- ・授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知
- ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法（教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等）
- ・学習の進捗と学生の理解度の確認
- ・授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導
- ・授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示
- ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数（【学士】）
- ・研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）の明示とそれに基づく研究指導の実施（【修士】【博士】）
- ・実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施（【院専】）
- ・各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証推進組織等の関わり（教育の実施内容・状況の把握等）

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	<p>【自己評価の理由】 研究科に所属する全学生に対して、履修可能科目数に上限を設定している。また全体の約7割を占める社会人修士学生については、学生らの日常業務から着想を得た学習課題設定に基づいて、課程修了までに必要な知識とスキルを獲得できるように、演習・論文執筆において教員が指導を行っている。一方で英語による講義に出席する学生(主に留学生)については、夜間に設置された日本語による科目の履修が上限付きで認められており、標準修了年限内で、学生各自が想定するキャリアパスに対応した科目履修が可能となっている。(資料 4-③-1、資料 4-③-2)</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】 履修制限については継続的に見直ししている。</p>	<p>4-③-1 履修ガイダンス資料</p> <p>4-③-2 基本要領 リンク先 P.2～P.13</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施方針と教育方法の連関性が確保されている。 ・授業内容・形態に配慮したクラス規模を設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準1を満たしている。 ・年間の登録単位数が50単位を超過している学生について申し合わせに定める区分に応じて対応している。 ・シラバスチェックリストを活用し、記載項目に漏れがないか組織的に確認を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準2を満たしている。 ・授業外における学習に対する指導体制を構築している。 【研究科】 ・研究指導計画を学生に明示している。 【専門職】 ・実務的能力育成のための教育上の工夫を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準3を満たしている。 ・各科目の到達目標とDPで定める学修成果などポリシーとシラバス記載内容の整合性が確保されている。 ・学修成果の獲得という観点から、適切な授業方法、形態が採用され、実施されている。 【研究科】 ・研究指導計画に基づき研究指導を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準4を満たしている。 ・学位プログラムとしての順次性・体系的に配慮した科目の配置が行われている。 【学部】 ・対話型、問題発見・解決型授業の割合が75%を超過している。 【研究科】 ・研究指導計画について定期的に見直しを行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況 (2023年提出分は記載不要)

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
5	

成績評価、単位認定を適切に行っているか。

- 成績評価及び単位認定を適切に行うための措置
- ・単位制度の趣旨に基づく単位認定
- ・既修得単位等の適切な認定
- ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
4	<p>【自己評価の理由】 演習科目など履修者数が 10 名未満の科目を除いて、研究科として相対評価基準を定めている。この結果、経営管理研究科での成績評価は非常に厳格なものである（資料 4-③-2）。</p> <p>成績評価が相対評価であるのに対して、AoL は絶対評価となっており、ルーブリックに基づいて、学生が必要なスキルセットを獲得できているかについて評価している。成績評価分布、AoL における Course Embedded Assessment (CEA)については、教員間で公開し、研究科における教育の質の向上のために議論の材料としている（資料 2-①-2、2-①-3、2-①-4）。</p> <p>【グッドプラクティス】 AoL (Assurance of Learnings)における Course Embedded Assessment (CEA)の測定と、その結果の AoL 委員会内での共有</p> <p>【課題】 特に無し。</p>	<p>4-③-2 基本要領 リンク先 P.16～P.17</p> <p>2-①-2 AoL ハンドブック</p> <p>2-①-3 カリキュラムマップ</p> <p>2-①-4 ルーブリック</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・事前事後の学修を含めた単位制度の趣旨について教員・学生への周知・徹底を行っている。 ・既修得単位の認定について箇所内で明確なルールを定めている。 <p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学部教育における成績評価基準に係わる申し合わせについて」に基づいた運用を行っていない。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準を定めていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・既修得単位の認定に関するルールについて、要項等で学生に周知している。 ・成績評価基準に基づいた運用を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・学修成果の可視化に関連する科目については絶対評価を用いるなど科目の性質に応じた柔軟な運用を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・成績評価を行うにあたって、ルーブリックを使用するなど、客観性を確保するための取り組みを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・各科目における成績分布を箇所内で共有し、適切な成績評価が行われているか確認する仕組みを構築している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
4	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目⑤-2

学位授与を適切に行っているか。

- 学位授与を適切に行うための措置
 - ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表
 - ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置
 - ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示
 - ・適切な学位授与

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	<p>【自己評価の理由】 経営管理研究科のミッション、修了条件、AoL 等については、入学時オリエンテーション以降、複数の機会において学生に説明し、情報は開示されている。また論文(学位請求論文、プロジェクト研究論文)審査基準については、研究不正への対応も含めて情報を開示している。(資料 4-③-2、資料 4-⑤-2-2、資料 4-⑤-2-3)</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】 専門分野の違いにより、要求水準が異なるため、評価基準に関する議論を継続中。</p>	<p>4-③-2 基本要領 リンク先 P.2～P.13</p> <p>4-⑤-2-1 科目登録 リンク先「科目登録の手引き」「アカデミックガイダンス」</p> <p>4-⑤-2-3 学位論文</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業・修了の要件を定めている。 ・卒業・修了の要件を刊行物、ウェブサイト等で公表している。 ・既修得単位数について上限を超えて認定されないような仕組みを設定している。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導の方法やスケジュールを定めている。 ・学位論文等の審査基準を公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・学位授与の責任体制・手続きについて定めている。 ・既修得単位の認定について箇所内での基準・手続き方法を定め、要項等で周知している。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導の方法やスケジュールを学生にあらかじめ明示している。 ・学位論文の審査基準を学生に文書等であらかじめ明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・学位授与の責任体制・手続きを要項等で明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 <p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文等について複数の教員で審査するなど組織的な審査体制を構築している。 <p>【研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副指導教員を置くなど研究指導体制の充実を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・学位授与の認定にあたってルーブリック評価を行うなど、客観性、透明性の確保のための工夫を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況 (2023 年提出分は記載不要)

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	根拠資料において副指導教員の存在が読み取れないため、3 と判断した。

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目⑥

学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

○各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定

○学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握及び評価するための方法の開発

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
4	<p>【自己評価の理由】 研究科開設科目の履修状況, 成績評価結果(含む SA, GPA 値)、AoL における Course Embedded Assessment (CEA), 学生授業アンケート, 論文審査結果, Exit Survey 等の結果を用いて, 学生個人と研究科プログラム全体について, 適切にアセスメントを実施している。(資料 2-①-2、2-①-3、2-①-4、4-⑥-1)</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】 修了後追跡調査における学生へのアクセス, 回答率を上昇させることが, 課題となっている。</p>	<p>2-①-2 AoL ハンドブック</p> <p>2-①-3 カリキュラムマップ</p> <p>2-①-4 ルーブリック</p> <p>4-⑥-1 Exit Survey</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> 学修成果の指標および可視化の方法を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 1 を満たしている。 学修成果の指標および可視化の方法を定めている。 学位授与方針で示した学修成果と可視化の方法の関連性が明確である。 可視化の方法が多角的かつ適切な方法となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 2 を満たしている。 学修成果の指標および可視化の方法が専門分野の性質に応じた適切なものとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 3 を満たしている。 間接評価と直接評価を組み合わせ可視化を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価基準 4 を満たしている。 直接評価と間接評価の相関分析などによりデータの妥当性を検証している。 経年比較などを行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況 (2023 年提出分は記載不要)

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
4	

基準 4 教育課程・学習成果 点検・評価項目⑦

教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

・学習成果の測定結果の適切な活用

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
5	<p>【自己評価の理由】 WBS Assurance of Learning System に基づく”Closing the Loop”サイクルを確立、測定結果をデータベース化し、経時的な分析を可能としている。（資料 2-①-2、2-①-3、2-①-4）</p> <p>【グッドプラクティス】 特になし。</p> <p>【課題】 特に無し。</p>	<p>2-①-2 AoL ハンドブック</p> <p>2-①-3 カリキュラムマップ</p> <p>2-①-4 ループリック</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
・教育課程の内容、方法等の自己点検・評価の体制・方法等について検討を行っている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・教育課程の内容、方法等の自己点検・評価の体制・方法等について内規等で定めている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・学修成果の可視化を定期的に行い、その評価結果を教育課程の検討を担う組織にフィードバックしている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・点検・評価結果を踏まえ、教育課程の改善・向上に向けた検討に着手している。	・評価基準 4 を満たしている。 ・点検・評価結果を踏まえた教育課程の改善・向上の実績がある。また、定期的に改善・向上を検討するサイクルが確立している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
5	

基準 5 学生の受け入れ 点検・評価項目①

学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
4	<p>【自己評価の理由】 経営管理研究科では、本学の理念や学位授与方針に定めた能力との関連性を考慮して、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針を踏まえて、求める能力、入学前の学習、入学選抜の方針など、学生の受け入れ方針を定めてウェブサイトで公表している（資料5-①-1）。</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】 特に無し。</p>	5-①-1 理念・沿革 リンク先「アドミッション・ポリシー」

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・課程ごとに学生の受け入れ方針を設定している。 ・学生の受け入れ方針を刊行物やウェブで公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・学生の受け入れ方針に、求める学生像を明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・学位ごとに学生の受け入れ方針を定めている。 ・他のポリシーとの一貫性が確保できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・学生の受け入れ方針に、入学前の学習歴、学力水準、能力、判定方法についても明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・箇条書きにする、平易な表現とする、図示化するなどの工夫により情報の得やすさや理解のしやすさに配慮している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
4	

基準 5 学生の受け入れ 点検・評価項目②

学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
 - ・オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施
 - ・オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保（受験者の通信状況の顧慮等）

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 学生の受け入れ方針に基づいて、入学者選抜制度を適切に設定している。入学者選抜に関する運営体制については、入試委員会や AO 小委員会を設置し、研究科執行部の責任のもと、整備された運営体制の下で公正な入学者選抜を実施している（資料 2-①-1）。授業料その他の費用や、奨学金制度などの経済的支援に関する情報は、研究科 Web サイトやパンフレットにて情報提供を行っている（資料 5-②-1）</p> <p>【グッドプラクティス】 。</p> <p>【課題】 方針に沿った学生を受け入れていることをデータで確認する件は今後検討を行う。</p>	2-①-1 各種委員会一覧 5-②-1 学費・奨学金

【評価基準】

1	2	3	4	5
・学生の受け入れ方針と選抜制度に関連性が確保されている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・学生の受け入れ方針を具現化するための運営体制を整備している。	・評価基準 2 を満たしている。 ・整備された運営体制のもと入学者の選抜が公正に実施されている。 ・費用や経済的支援に関する情報提供を行っている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・方針に沿った学生を受け入れていることをデータにより確認している。	・評価基準 4 を満たしている。 ・学生の受け入れ方針を具現化するための運営体制の見直しを行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準 5 学生の受け入れ 点検・評価項目③

適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

- ・入学定員に対する入学者数比率（【学士】）
- ・編入学定員に対する編入学生数比率（【学士】）
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
2	<p>【自己評価の理由】 経営管理研究科においては、学生数を適正に管理しており、収容定員に対する入学者・在籍者数は基準を満たしている（資料 5-③-1）。</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】 れまでの実績を踏まえると収容定員に対する在籍学生比率に過剰・未充足が生じる可能性は低いと想定しているが、発生した際の対応方法は今後検討を行う。</p>	5-③-1 データ集

【評価基準】

1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ・収容定員に対する在籍学生数比率の管理を行っている。 <p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員充足率の5年平均もしくは収容定員充足率が、是正勧告に該当する基準（注1）をクリアしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準1を満たしている。 <p>【学部・研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員充足率の5年平均もしくは収容定員充足率が、改善課題に該当する基準（注2）をクリアしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準2を満たしている。 <p>【学部・研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収容定員と在籍学生数に齟齬が生じた場合の対応方法やフローを確立している 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準3を満たしている。 ・3つのポリシーなどに基づいて、あるべき収容定員数について意見交換を行う機会を設定している。 	

注1～注2：大学基準協会「評価にかかる各種指針」参照

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
2	

基準 5 学生の受け入れ 点検・評価項目④

学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 入試説明会でのアンケート調査，入学時の意識調査，課程修了時アンケート，修了生に対する意識調査など，学生の入学後から修了後までの複数の時点で，点検・評価を実施している（資料 5-④-1、5-④-2、5-④-3、4-⑥-1）。</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】 特に無し。</p>	<p>5-④-1 説明会アンケート</p> <p>5-④-2 入学時アンケート</p> <p>5-④-3 CMC アンケート</p> <p>4-⑥-1 Exit Survey</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
・学生の受け入れに関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセスについて検討している。	・評価基準 1 を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセスを内規等で定めている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価を定期的に実施している。	・評価基準 3 を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の結果に基づき、改善に取り組んでいる。	・評価基準 4 を満たしている。 ・学生の受け入れに関する自己点検・評価の結果に基づき、定期的な改善実績がある。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目①

大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

○求める教員像の設定

- ・各学位課程における専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等

○各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針（分野構成、各教員の役割、連携のあり方、教育研究に係る責任所在の明確化等）の適切な明示

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 本研究科では、「大学院経営管理研究科運営委員会規程」（資料 6-①-1）において、研究指導ならびに授業科目を担当する教員に求める能力・資質を定め、規程に従って、運営委員会メンバーに開示し、その教授能力を適切に審査している。また、早稲田大学ビジネススクールの戦略ステートメントを設定して明示している。（資料 6-①-2）</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】 特になし。</p>	<p>6-①-1 運営委員会規程</p> <p>6-①-2 戦略ステートメント</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針を定めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 1 を満たしている。 ・各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針において求める教員像を提示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 2 を満たしている。 ・各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針を箇所内で適切に共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 3 を満たしている。 ・教員組織の編制に関する方針について定期的に点検・評価を行う体制となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 4 を満たしている。 ・教員組織の編制に関する方針についての点検・評価の結果に基づき、定期的な改善を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目②

教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

○学部・研究科等ごとの専任教員数

○適切な教員組織編制のための措置

- ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性
- ・各学位課程の目的に即した教員配置
- ・国際性、男女比
- ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成への配慮
- ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授又は准教授）の適正な配置
- ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置
- ・教員の授業担当負担への適切な配慮

○教養教育の運営体制

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 本研究科を主として担当する専任教員数（任期付教員含む）は、40 名であり、設置基準を満たしている。前項で述べたとおり、本研究科において研究指導ならびに授業科目を担当する教員の任用については、「大学院経営管理研究科運営委員会規程」（資料 6-①-1）の定めに従って、運営委員会においてその教授能力を適切に審査している。授業科目における専任教員の配置については、経営管理研究科カリキュラム・FD 委員会、経営管理研究科運営委員会において、慎重な検討が行われている。（資料 6-②-1）</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】 特に無し。</p>	<p>6-①-1 運営委員会規程 6-②-1 研究科運営に関する各種委員会等についての申し合せ</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
<p>・専任教員数または教授数が設置基準を満たしている。</p> <p>【専門職】 ・実務家教員が適切に配置されている。</p>	<p>・評価基準 1 を満たしている。</p> <p>・教員組織の編制方針に則った採用活動を行っている。</p>	<p>・評価基準 2 を満たしている。</p> <p>・各学部・研究科の教員組織の編制に関する方針に基づく適切な教員編成となっている。（課程の目的、主要な授業科目への専任教員の配置、研究科担当教員の資格の明確化）</p>	<p>・評価基準 3 を満たしている。</p> <p>・国際性、男女比、年齢構成、各教員の授業負担のバランスの観点において適切に教員を配置している。</p>	<p>・評価基準 4 を満たしている。</p> <p>【学部】 ・教養科目や共通科目等の運営についての体制を構築している。</p>

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目③

教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

- 教員の職位（教授、准教授、助教等）ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続の設定と規程の整備
- 規程に沿った教員の募集、採用、昇任等の実施

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 採用基準，昇任基準については，2016 年の経営管理研究科設置時に内規を設定し，それに基づいて運用してきた。（資料 6-③-1、6-③-2）またテニユア・トラック制度についても，採用とテニユア審査基準に関する基準を適切に定め，採用時に候補者に対して開示している。（資料 6-③-3）</p> <p>【グッドプラクティス】 テニユアトラック制度を学内で最も早期に導入し，テニユア審査基準を制定したこと。</p> <p>【課題】 より客観性の高い，数値基準の導入。</p>	<p>6-③-1 採用規程</p> <p>6-③-2 昇任規程</p> <p>6-③-3 テニユア・トラック運用内規</p>

【評価基準】

1	2	3	4	5
・募集、採用、昇任等に関する基準や手続きを定めている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・募集、採用、昇任等に関する基準や手続きを定め、規定化することにより箇所内で共有している。	・評価基準 2 を満たしている。 ・規定に基づき、募集、採用、昇任等の実施が行われている。	・評価基準 3 を満たしている。 ・規定や運用について定期的に自己点検・評価を行う体制となっている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・点検・評価の結果を踏まえて定期的な改善を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目④

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。

○ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の組織的な実施

○教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価とその結果の活用

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
4	<p>【自己評価の理由】 定期的を実施する研究科運営委員会の後に、国際認証や AoL などの取り組みに関する説明会を不定期に開催し、研究科の戦略に対する理解の深化、教員組織の改善・向上につながる FD 活動と捉えている（資料 6-④-1、6-④-2、6-④-3、6-④-4、6-④-5）</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】 特に無し。</p>	6-④-1 説明会資料 6-④-2 説明会資料 6-④-3 説明会資料 6-④-4 説明会資料 6-④-5 説明会資料

【評価基準】

1	2	3	4	5
・学部・研究科単位で FD 活動を行っている。	・評価基準 1 を満たしている。 ・課程ごとに教育改善にかかる FD が組織的に実施されている。 ・教育に加えて研究や社会貢献活動にかかる資質向上を目的とした FD が実施されている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・エビデンスにより明らかになった課題の改善を目的とした FD プログラムを実施している。 ・恒常的に専任教員の 3/4 以上が FD プログラムに参加している。	・評価基準 3 を満たしている。 ・FD 活動によって教育活動等の改善を行っている。	・評価基準 4 を満たしている。 ・自己点検・評価の結果、FD 活動の改善に取り組んでいる。 ・専任教員全員が恒常的に FD プログラムに参加している。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
4	

基準 6 教員・教員組織 点検・評価項目⑤

教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

○適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

自己評価	取り組み状況（目安 400 字程度以内）	根拠資料
3	<p>【自己評価の理由】 単年度毎の教員の募集方針は、各専門領域の需要、年齢構成、カリキュラム運営における必要性等を考慮し、研究科運営委員会での審議を経て決定している。また、採用にあたっては、選考委員会に選考結果報告書の作成を求め、当該候補者が募集方針に適する人材であるかを運営委員会での審議において確認している（資料 6-⑤-1、6-⑤-2）</p> <p>【グッドプラクティス】 特に無し。</p> <p>【課題】</p>	6-⑤-1 採用計画報告 6-⑤-2 選考結果報告書

【評価基準】

1	2	3	4	5
・教員組織に関する自己点検・評価に対する基準、体制、方法、プロセス等を検討している。	・評価基準 1 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価に対する基準、体制、方法、プロセス等を内規等で定めている。	・評価基準 2 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価を実施している。	・評価基準 3 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価の結果を踏まえ改善に取り組んでいる。	・評価基準 4 を満たしている。 ・教員組織に関する自己点検・評価を踏まえ定期的に改善を行っている。

前年度の課題、指摘事項に対する取り組み状況（2023 年提出分は記載不要）

【大学点検・評価委員会による評価】

評価	特記事項
3	